

## 現在、40チームが参加

9月6日午後1時半、小雨の振りしきる中、船橋市の宮本ビバースDチームと、市川市の北方（きたかた）、中央の試合が始まった。選手はいずれも年生の子供たち。ルーキーリーグの、お互いに決勝トーナメント進出をかけた大争を戦っている。

試合はすべりに動いた。1回の表、制球に苦しむ宮本ビバースのピッチャー金本君は、フォアボールで北方中央の監督君に出塁を許す。監督君はそのまま盗塁、盗塁でサードへ。続く原君が右中間に痛烈なヒットを打ち、この回、北方中央は2点先取する。しかしその裏、今度は北方中央のピッチャー鈴木君がピンチに立たされた。激しさを増した雨にさらされ、ストライクが入らないのだ。細い腕を思いっきり振って渾身（こんしん）のボールを投げるのだが、無精にもフォアボールとフォドボールが続く。その隙を逃さず、宮本ビバースは金本君、鈴木君、三宅君、杉浦君が次々とヒットを打ち、この回大量9点を叩き出した。

その後、北方中央はリリーの西尾君の好投、フォアースに代わった鈴木君の確実な守護などで追加点を許さなかったが、持ち前の機動力でチャッパを確実にものにした宮本ビバースが、対7で決勝トーナメント進出に王手をかけた。

ルーキーリーグは全国でも珍しい、3年生以下の選手を対象とする大会である。創設は今年から14年前の90年、宮本ビバースの荒井義一会長（当時監督）が生みの親である。当初はたった1チームでスタートしたこの大会も、創設15年目を迎えた今年は、市川市、浦安市、習志野市、千葉市からもチームが集まり、その数40を数えるまでに成長。40チームを

### 第1回 こうして「ルーキーリーグ」は始まった



宮本ビバースの「ルーキー」たち。全員3年生のDチームと、2年生～幼稚園児のEチームの2チームで、ルーキーリーグに参加している

# がんばれ、ルーキーリーガー!

[連載ルポ]

1990年(平成2年)、千葉県船橋市に、全国でも珍しい小学校3年生以下の選手を対象とした大会、「ルーキーリーグ」が誕生した。幼い選手たちのやる気を引き出し、新入部員獲得にも貢献するこの大会の魅力と、15年の歴史から生まれた数々の物語を、1年にわたって紹介していきたい。

8つのグループに分け、各グループ内でリーグ戦(総当たり戦)を行い、それぞれの順位もチームで決勝トーナメント(勝ち抜き戦)を行って優勝を決める。6・10月の約5カ月をかけて戦い、優勝チームには立派な優勝旗やカップ、メダルが授与されるという本格的な大会だ。ルーキーリーグができる前は練習ばかりで飽きてしまっていた低学年生が、「この大会ができてからはやる気が出て、集中して練習できるようにまりましたね」と指導者たちは口をそろえる。

## 大反対からのスタート

しかし、今でこそ誰もがその意義を認めるルーキーリーグも、立ち上げにあたっては苦しいスタートをたどった。本来は船橋市の大会としてスタートさせられたんですけど、理事会の猛反対にあって実現しなかったんですよ」と荒井会長は振り返る。実は90年当時、千葉県の少年野球人口は減少の一端をたどり、関係者は危機感を募らせていた。そんな中、起死回生の策として荒井会長が思いついたのが、低学年生による大会だったのだ。

「幼い子供でも試合に出られると聞けばやる気が出るし、入部希望者も増えるに違いない!」そう思った荒井会長は、船橋市野球協会少年学童部の常任理事会で3年生以下の大会の新設を提案した。しかし、場内はシーンと静寂を醸成。やがって、審判部の理事たちがいっせいに反対の口火を切った。

「荒井さん! 三張とフォアボールとエラー!」

「たいい! 3年生で試合ができるわけがないじゃないか!」

きつい口調で言いつつの姿面々に「そんな次元の低いことを言っている、今に

子供たちをみんなサツカーにもつていけるよ。できないと言っ前にルールを変えればいいじゃないか。低学年でもできるように試合を演出するのが審判部じゃないの!」と荒井会長がみつみつと会議は一触即発の状態となった。たまたま理事部長が仲裁に入り、多数決へ。結果、賛成3、反対20の大差で低学年大会は否決されたのである。

しかし、荒井会長は有為でこの大会を開こうと計画した。監督歴11年、彼には低学年生でも試合ができるという確信があったからだ。そしてツテを頼って市川市のチームに声をかけ、臨時の常任理事会から3カ月後には、船橋市と市川市のチーム合同で第1回ルーキーリーグを開催。実際に大会が始まってみれば、投げた打った走った試合とはいえず、子供たちは気合の入った試合を展開し、低学年生でも立派に試合ができることを証明した。大会に出られると聞いて新入部員も増えた。

今、ルーキーリーグで一生懸命プレーする子供たちを見て、荒井会長は、「本熟な試合の審判なんてやってられるか」という大人の論理で、子供たちのやる気を奪ってはならなかったと、改めて思う。

10月10日、今年の優勝チームが決まる。



ルーキーリーグの指導者、宮本ビバースの荒井義一会長。指導歴20年のベテランだ